

今年は季節の進みが早い様で、ジャコウアゲハは盛りを過ぎ、アカボシゴマダラも産卵の時期に入っています。都内や横浜ではアカシジミが出始めました。これから低地性のゼフィルスが出揃うことでしょう。高尾山など低山地ではミヤマカラスなどの黒色アゲハが良さそうです。

(総務幹事：田中和夫)

【5月例会】

日時：平成27年5月19日(火)(第3火曜日) 午後6:30~8:30

場所：吉祥寺、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室

講演：前川峻氏「東京都中野区の絶滅前のツマグロキチョウについて他」

<講演要旨>

1. 東京都中野区の絶滅前のツマグロキチョウについて。
2. 神奈川県津久井郡小倉のギフチョウについて。
3. 東京都東村山で観察した年末、年始のベニシジミについて。
4. 東京都東大和のムラサキツバメシジミについて。
5. 信州峠のツマキチョウと山梨県御坂のアカボシゴマダラについて。
6. ミヤマモンキチョウ、ミヤマシロチョウ、エゾシロチョウ、カラフトルリシジミの写真。
7. 東京都東大和市でのオオタカがアヒルを襲った写真。
8. ソロモン諸島のアオメガネトリバネとビクトリアトリバネについて。

以上を101枚の写真と共に解説します。

講演：寺章夫氏「ウスバシロチョウの楽しみ方」

<講演要旨>

1. 地域変異：黒くなる産地、どこが一番黒いか。白い産地他。
2. 個体変異：斑紋、翅形、大小他。
3. ♀の変異：斑紋と色、なぜ♀に変異が大きいのか。
4. 飼育法：採卵の仕方、飼育鉢、食草の確保他。

以上を詳しく解説します。

【以降の例会予定】 午後6:30~8:30、

6月16日(火)(第3火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

講演：栗山定氏「あなたはもうご存じかしら？イナズマ類のちょっとした同定ポイント」

伊勢崎眞司氏「道北の蝶、層雲峡から枝幸蝶巡り」

7月18日(土)~19日(日)

夏合宿 立川市八ヶ岳山荘

7月25日(土)(第4土曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

講演：井上孝美氏「ヒサマツミドリシジミの全貌-その1-」

向井氏「カメムシがふるえるのには訳がある：愛を伝える振動コミュニケーション」

8月18日(火)(第3火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

【連絡事項】

1. 「2015年度の会費」

2015年度の会費を未納入の方は、急ぎ納入して下さるよう、お願いします。

- ・会費 一般会員：4,000円、 高校生以下：1,000円
- ・送金先 ゆうちょ振替口座：00180-0-67713 グループ多摩虫

ゆうちょ口座に送金していただいた場合は、ゆうちょ側で納入記録を送付してくれますので、会計上の記録保持のためには非常に有効です。 会計業務の効率化及び間違いをなくするため、納入はできるだけゆうちょ振替口座をお願いします。

なお、会費未納の方は6月末日をもって退会といたします。 (会計幹事)

2. 「会員専用ホームページ」

4月1日から会員専用ホームページのID/PWが変更されました。新規ID/PWは、新年度会費を納入されている方のみにお送りしています。会費を納入しているのに新規ID/PWが届いていない方がいましたら、連絡ください。(IT幹事 patapata@millionlovers.com)

3. 「新着交換会誌」

下記の交換会誌が送られてきています。5月例会で回覧します。

尚、今回回覧する図書も貸し出し対象と致しますので、ご活用下さい。

1. 榎原市昆虫館 昆虫館だより Darwin 15号・16号
2. 同上 昆虫館行事案内
3. ホシザキグリーン財団 研究報告 第18号
4. 同上 研究報告特別号 第12号・第13号・第14号
5. 同上 平成26年環境修復PJ報告書
6. 同上 HOWP No.34・35・36. 37
7. 同上 自然観察リーフレット冬編

【4月例会 概要】

4月の例会は、参加者は計48名、その中には講演者の新津ファンの方々や、北海道枝幸町からオホーツクミュージアムえさしの白井平学芸員もおられました。

今回の例会は会員の中谷貴壽氏および外部講師の新津修平氏の2名の講師による2部構成での講演で行われました。

中谷貴壽氏：「世界のベニヒカゲ属 (Erebia) を求めて」

室内での分子生物学実験から、各国の高山における採集まで厭わぬ中谷さんならではの話を伺うことができました。ベニヒカゲ属の概説から始まり、中谷氏による *Erebia* 属99種、その中で最初の1回しか採集されていない2種を除いた97種について、特殊な形質を持った種からハイブリッドの話まで多様な切り口から紹介していただき、引きこまれました。

残り一種、*E. deputatska* の採集を成功させた暁には、是非再度お話を伺いたいです。前述の一回のみ採集された2種、ロシアの *E. zaitsevi* およびチベットの *E. ludlowi* といった幻のチョウにも強いロマンを覚えました。

新津修平氏：「フチグロトゲエダシャクの翅退化について」と「原始的な有翅型ミノガ類の多様性」

豪華な二本立て。ガにおける「翅がなくなってしまう」という現象を題材として、前半ではフチグロトゲエダシャクにおけるそのメカニズムを分子生物学的に、人間の指が分かれる時と同じ細胞死（アポトーシス）から説明を、後半ではミノガ類の分子系統解析から翅の退化が何度も起きたことの証明が披露されました。

虫屋としては、新津さんが講演で語った「飼育したフチグロトゲエダシャクのオスが逃げたり（放したりは論外）すると、メスが飛べないために各地域で分化しているこの虫の遺伝的な多様性が失われる」危険性には十分注意していきたいところです。

例会終了後は、恒例の二次会が開催されましたが、ここでも多数の会員による楽しい飲みが展開され、見学に来た臼井平氏が多摩虫の虫屋パワーに驚愕していたことを付け加えておきます。

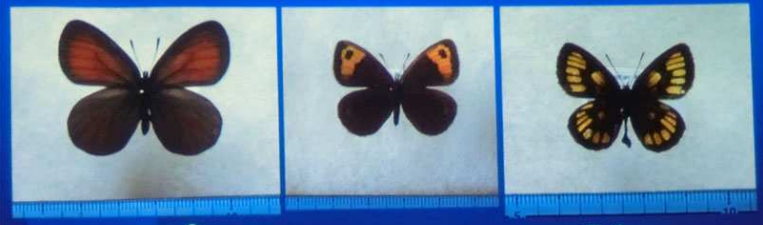
（企画幹事：坂本洋典）

私の秘蔵っ子



E. tristior ♀、2014年末現在世界で唯一

美しいベニヒカゲ



E. erynina ♀

E. zapateri

E. theano

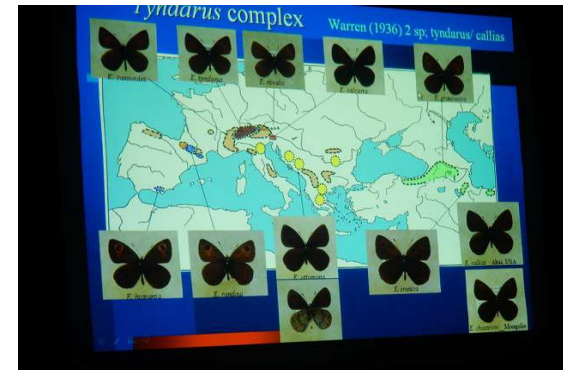
フチグロトゲエダシャクの翅退化について



中谷貴壽氏 「世界のベニヒカゲ属 (*Erebia*) を求めて」



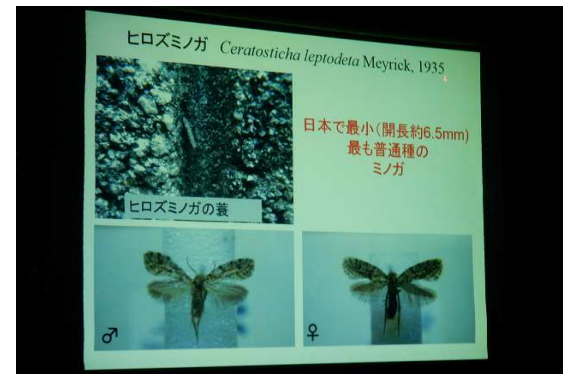
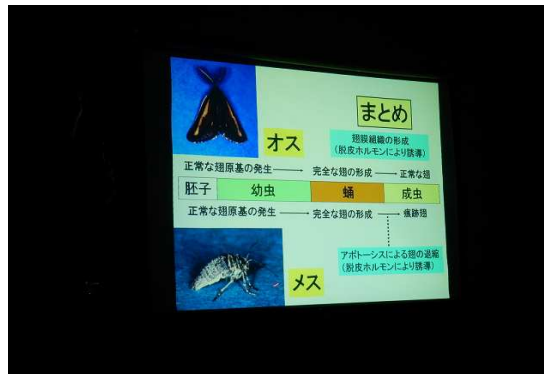
演者の中谷さん



新津修平氏 「ハネを無くした蛾、翅を無くさなかった蛾のお話し」



演者の新津さん



例会の風景



懇親会の風景

